

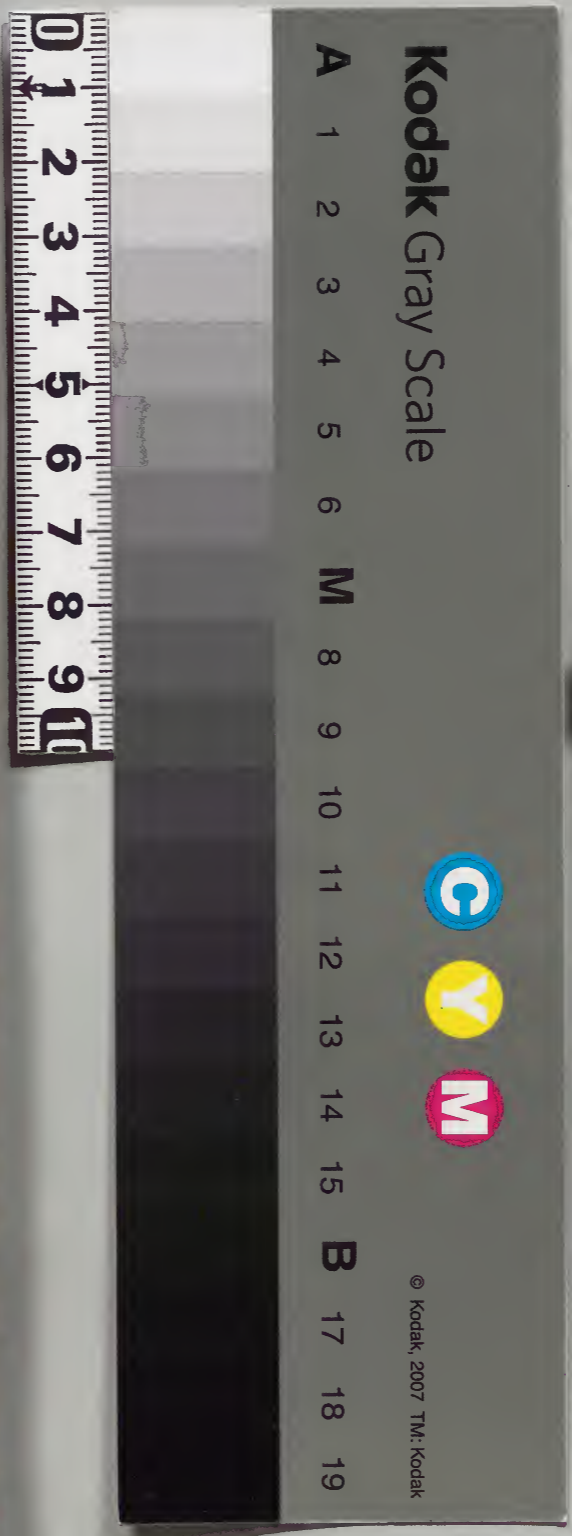
和書門類

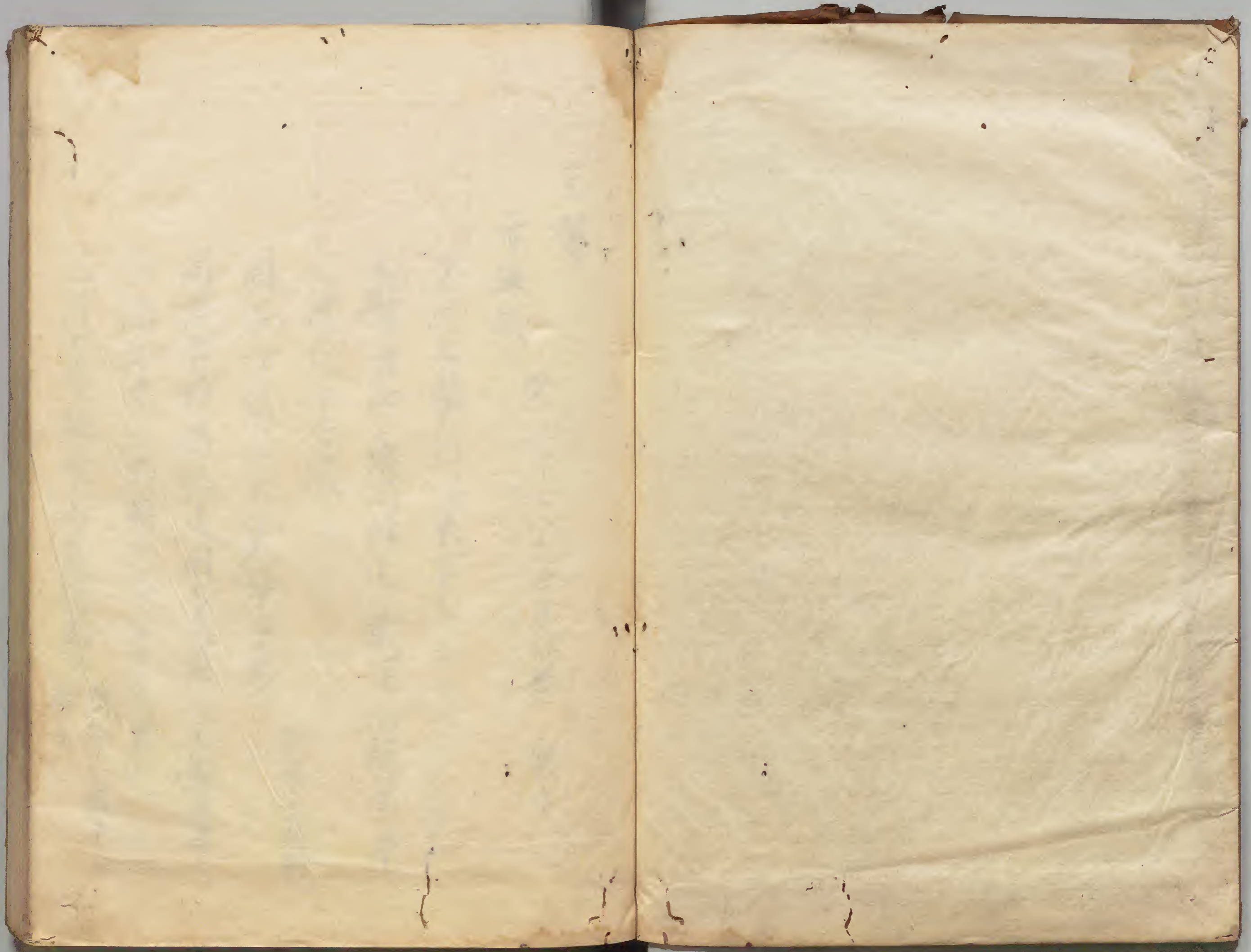
和書門類	二〇六三〇	函號	五五	架冊	五五
------	-------	----	----	----	----

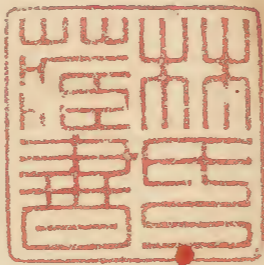
和書	二〇六三〇	函號	五五	架冊	五五
----	-------	----	----	----	----

內閣文庫	
番號	和 20630
冊數	55 (23)
函號	203 25

二〇六三〇







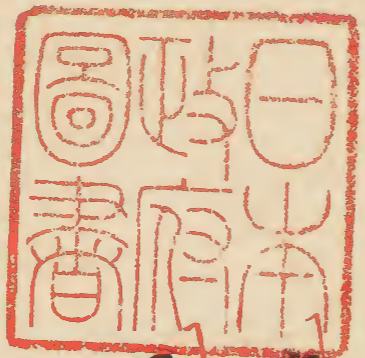
玉鬢

亦五歲

紫上亦七八之由見此卷

實亦八

淺草文庫



夕白上離別以來事

玉鬢君四歲時伴少貳下向筑紫事

源氏十七歲

源氏亦三歲時

同君十歲時少貳卒去事

同君女許時肥後國大夫監念玉鬢君事

源氏亦三歲時以上

三月大夫監來少貳館事

今年玉鬢亦二歲也

四月王醫君逃坑堂上洛事

故小貳此方兵部君豐後介等相伴事

九條取宿也

秋玉醫君詣八幡并長谷寺事

於長谷寺逢右近君事

右近君歸參六條院語申玉醫君事

源氏君遣父於玉醫君方事 有返事

同君先渡右近五條家事

十一月同君渡六條院良町事

以在沙方為後見

其夜源氏君對面玉醫君事

堂上花散里玉醫君未摘花明石上空蟬尼君

未摘君唐衣歌事

和濟髓腦等事

玉鬘
何原氏

秘以歌為卷名

山いそ高きハ地をこりんとむら
いふら下らけらるるのさくらん
い巻ハし女のをよみ才とてハ五系
院亦の女の三月より十二月まで
年計いつらし凡夕自よハ五系
くは原氏をアめハ初くがふし乃
院し物よけししてむらし
侍しうれ時ハ女ハ十八原氏ハ十六乃時

の

何れが

を中へ

けり

い

為

丁

去

し

た

所

八

年

時

私

右

又

婦

年

はよのころは人のち

^秘いころは葉とてはくくくくく

くくくくくくく

いぢい潜くまのひくくくくく

くくくくくくくくくく

潜龍而用臣龍徳而隠つり

巻之頻早ノくくくくく

女君りりり

名をとくくくくく

くくくくく

右近の事

取まゆ

父白の事

名を隠

く

くくくくくくく

く

原く

丁未、八月、十日、白、あ、い、は、り、り、
あ、い、ち、あ、の、あ、い、い、せ、ん、お、い、し、い、
あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、
あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、

孝徑曰滿而不溢、う、さ、い、ふ、ふ、ふ、ふ、
ひ、し、り、の、常、徳、え、れ、れ、れ、れ、れ、れ、
り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、
あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、

あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、

あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、
あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、
あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、
あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、

あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、
あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、

あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、
あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、
あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、
あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、あ、い、い、

あし歩んドとせしむる

かろくまのやりにり

まろくまのやりにり

まろくまのやりにり

まろくまのやりにり

まろくまのやりにり

まろくまのやりにり

まろくまのやりにり

まろくまのやりにり

まろくまのやりにり

教はのあし歩ん

まろくまのやりにり

まろくまのやりにり

まろくまのやりにり

まろくまのやりにり

まろくまのやりにり

まろくまのやりにり

まろくまのやりにり

二姉に

おとまりはひらりよ母をよこされし

おとまりはひらりよ母をよこされし

おとまりはひらりよ母をよこされし

いすめよりおひらりよ

おとまりはひらりよ母をよこされし

おとまりはひらりよ

おとまりはひらりよ

おとまりはひらりよ母をよこされし

おとまりはひらりよ

おとまりはひらりよ

おとまりはひらりよ母をよこされし

おとまりはひらりよ

おとまりはひらりよ母をよこされし

おとまりはひらりよ母をよこされし

おとまりはひらりよ母をよこされし

おとまりはひらりよ母をよこされし

おとまりはひらりよ母をよこされし

しうらうしうらうも夕色をうらをきり
めりし書い又よ従ふあれい又し
しんみねくしんみねく物と女の詞カクマう
らうしうらうのうられし地のうらうら
中しんみねくしんみねく人後撰八巻
しんみねくしんみねくしんみねくしんみねく
多しんみねくしんみねくしんみねくしんみねく
しんみねく

神皇正統記

表のしんみねくしんみねくしんみねく

私にもあつたふたつ青のうらうら
けしんみねくしんみねくしんみねくしんみねく
しんみねくしんみねくしんみねくしんみねく

あしんみねくしんみねくしんみねく

しんみねくしんみねくしんみねくしんみねく

しんみねくしんみねくしんみねくしんみねく

しんみねくしんみねくしんみねくしんみねく

しんみねくしんみねくしんみねく

舟 舟へれいふ初人別ニ子細り

舟子れいふ夢らにふるる初夜

るゆいゆり後拾遺才日東交法所

沙茶茶玉ましくかきりるる風を

うらみゆいゆり秋をましくもり

志りゆくは秋と書ゆのり

匡云舟子私人

毛詩曰甄有苦葉

管曰舟人し号

白氏文集亦六

怪現

うらみゆいゆり

秘 舟子れいふ

少氣の夫婦と二人うらみゆいゆり

ゆりゆ海妙少氣の女二人うらみゆい

ゆれいゆいゆりゆりゆりゆりゆり

めいゆいゆいゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆいゆいゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆいゆいゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆいゆいゆりゆりゆりゆりゆり

いそよそとくさくさくえきしとてふらん
こゝろ

ふくのきれおとすきしつらうらうら

水一きぬ声れまひおとす

我もうらみいゝあつゆかみい何乃

あふれあつれ

あふれあつれ

あふれあつれ

何
大嶋鏡前也
鐘河

秘
とては夕形とのうら

私夕魚とノ行末志くわぬま

あつとノ行末志くわぬま

あつとノ行末志くわぬま

は二首少歌女二人 婦川侍
考了也 子く死乃約

よしあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつと

河海は両首少歌女二人 子く死乃約

少歌女二人 子く死乃約

いぢのしつと事不審と後不向
い償書しめさうくもあらとて予の如
く切もしてさうとてしすめられ何とぞ
私弁とらぬれといふ音始ノ
予ハあひつて頂のあつてとて
うらまゝとて
あせししんれんはくくくく
あつれんはくくくく
いしつ何しとてあらんやとてさうとて

私とてあらんれんはくくく
いれのうらまゝとて
あつれんはくくく
あつれんはくくく
いあつれんはくくく
私とてあらんれんはくくく
他は載し
河
成也の河はくくく


~~~~~

夕白の事と云ふ事  
しほの事と云ふ事  
あり

~~~~~

はく~~~~~の事

~~~~~

夕白の事と云ふ事

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~





そらうらへ

私が就のうへく遠まうへ

うらふけくをん

おやの孝養をいふゆへ

ほらうらへのきありき 并同

そのくは子とてらのくもまうへ

何我鼓し

まうへくは父とてらの鼓の中

あうらへく

ふらうらへ

が鼓死をのまへ

あうらへく

くまうらへく

りぬまうへ

こまうらへ

あうらへく

あうらへく

あうらへく



とつてくしつろか申し

秘 ぞ ぞつてくし

秘 同つてくし

私つてくし

心付かせしころ

秘 ぞつてくし

ゆゑあるも

か申しめしころ

ふらふらと

とつてくし

とつてくし

とつてくし

とつてくし

とつてくし

とつてくし

とつてくし

とつてくし

秘 第4巻より



利具齋者於年有三ヶ月所諸 天帝  
款為其主領迴四天下檢計衆生所作  
善惡其正月亦日向南閻浮提二月赴  
西瞿耶尼三月行北鬱檀越四月十日  
東弗婆提也天帝以正五九月巡向南  
列誰記衆生作業  
後撰 兼下 年星也ころころ女檀越の  
りしころころとらしてしゆきつ  
ころころ

惟濟法

甲せよおもとせやくといのりくら  
乙れきくを君かんころころ  
私一年のころころ正み九月一月  
ハ六サリしころ養恨ころ真也  
ころころ縁ころころのころころ  
辨ころにりり  
玉は

ころころはの國  
何ころころはの國  
一動回

人吏の言んとしていひのあ

太宰府一員仰權大貳少貳大監三藍

二大貳少貳大少令史亦あり少貳叙爵之

時少卿とて件監叙爵の時大吏監と号

と人監と正六位下少監六從六位と相當

有軍監軍者有東監者有西武八官

大監正六位下相當ハ友とれと極位下

叙一如き凡女大吏ノ監と稱はる

監ハ大宰ノ大監と相當六位也とすい

秘

花

中監として叙爵一キはる叙是

あふはち大監とす

大宰ノ監ありりの叙爵一とる監

濁りてし

かゝいり

一類のいふとて孩の字心れ

しつてさいのら

あゝく一といひ人のた

こらあ

くららのいれをあらわし

いささか

あつた

て監のい

尾よあんとす

いまの

あつた

あつた

ころをの

かたれ

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あうーいしーあうーあうー

うーうーうーうーうーうーうーうー

いーいーいーいーいーいーいーいー

あーあーあーあーあーあーあーあー

うーうーうー

あーあーあー

秘  
あーあーあー

うーうーうーうーうーうー

秘  
うーうーうー

あーあーあーあーあーあーあーあー

うーうーうー

あーあーあーあーあーあーあーあー

あーあーあーあーあーあーあーあー

あーあーあーあーあーあーあーあー

あーあーあー

あーあーあーあーあーあーあーあー

秘  
あーあーあーあーあーあーあーあー

あーあーあーあーあーあーあーあー

ふらふらと

ふらふらと年々くちくちくとの事と縁

ふらふらと

ふらふらと

ふらふらと

花於 人の心とちかよひて

ふらふらと

私に書きたる事

私に書きたる事

こころ

中れこの女ありふらふらと

秘 兄の肉を中れ

秘 兄の肉を中れ

ふらふらと

秘 中れこの女ありふらふらと

あつち

秘 中れこの女あり

秘 中れこの女あり

豊後介父ノ通云とらふ

いふあふのりなす同ん

女女よりはあつてさふほるせしは

く君れりふしあ

夕色ノころけあつてあつてつりよ

君公せあしんかしくみあ

てさあしあ

あつてあつてあつてあつて

監事よあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

叔

あつてあつて

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

叔

あつてあつて

あつてあつて

輔相

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて



かみくんの人の物だかきまら  
ごうくきらしりふくまの世に  
あつて

和

孝経序吾嬭<sup>ハナヒ</sup>其況然迄無以難之乎  
誦ハたつこふ<sup>ハナヒ</sup>刊のまじや  
ふらつしあ<sup>ハナヒ</sup>  
或沛況沛<sup>ハナヒ</sup>刊地つしき<sup>ハナヒ</sup>さらは  
只よ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>

私秘抄が孝経ノ序又<sup>ハナヒ</sup>い<sup>ハナヒ</sup>い<sup>ハナヒ</sup>

きみ<sup>ハナヒ</sup>ら<sup>ハナヒ</sup>き<sup>ハナヒ</sup>ら<sup>ハナヒ</sup>し<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>し<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>  
と<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>し<sup>ハナヒ</sup>は<sup>ハナヒ</sup>ら<sup>ハナヒ</sup>き<sup>ハナヒ</sup>ら<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>

同<sup>ハナヒ</sup>し<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>

み<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>二部<sup>ハナヒ</sup>

な<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>の<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>二部<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>  
あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>  
あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>

監<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>あ<sup>ハナヒ</sup>

こえつりわさり

し繁あゆみゆるる

けさういふれさるる

ひまれ

秘 更盛の初

秘 松は道ち何い候か

御ちもせ

何

假借人

貞観政要

氣装人

新撰示記又  
假相人曰

夜這人 竹北物語云

り行々やみの夜とせ

いふしやいふあし

よふいふいふ

いふいふいふいふ

いふいふいふ

いふいふいふいふ

秘 秋のゆかり

川あふあや

三月あれく川あは



秘

威光く

さつ

志と

か致人の志れ末代にひらく  
いんきんきんきんきんきん  
い志と

これあり

惟天の辰位

り

い

照りか

あ

秘

あ

き

書房

い

是の

い

ひ

丁子

花 花

花 花

花 花

花 花

花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花 花

花

花 花

花 花

花

花 花

花 花

花 花

花

花 花

花 花









あれはしるしに

を あれはしるしに あるまじく

あはれ あるまじく あるまじく

あはれ あるまじく

あれはしるしに あるまじく あるまじく

あはれ あるまじく あるまじく

あはれ あるまじく

あれはしるしに あるまじく あるまじく

あはれ あるまじく あるまじく

あはれ あるまじく あるまじく

あれはしるしに あるまじく あるまじく

あはれ あるまじく あるまじく

あはれ あるまじく あるまじく

あはれ あるまじく あるまじく

あはれ あるまじく あるまじく

あれはしるしに あるまじく あるまじく

あはれ あるまじく あるまじく

あはれ あるまじく あるまじく

秘

ふつはむすどおろしきくきくきく

賢さうごまうしきくおのり

やごめり二月の耕りあひ

きりしきりしきり

しきりしきりしきり

秘

よまのりしきりしきり

ふつはむすどおろしきくきく

きりしきりしきり

ふつはむすどおろしきくきく

らにほ

秘

あつらひしきりしきり

秘

けくはむすどおろしきくきく

きりしきりしきりしきり

きりしきりしきりしきり

きりしきりしきりしきり

伊勢物語春の野うすあふ例

秘

きりしきりしきりしきり

あつらひしきりしきり





清く地へくさるぬくこと御ありは

同

秘

領林するくさるくさるしめりしは

あしきんくさるつぎれ

或御税い款ぬぬのさひる

るく徳意入るりさぬあしき

なふしらわちひるさ

さうかれとがしらさるわち

又うんし

監れ又きとみさるさる

る

二部あさるくさるし

あしあしあさるさる

ぶの介とせしれ

たのもあつらんあ後弁一人

いさつとつらん

あ後弁の関

あくのけり

はらから 親 百才八



あしきりよふらけしとてこのあり  
きらよーまーんを

あしきりひりい今い昔りれ君

秘 末のついで

あまの監いいよちり

秘 いのほよけり

あひりい

ふとあしほくしからしりあし

うーいりち里と

号部志ノ部ノいあれとくはれ

いさよと石郷と

お酒言れあし

秘 部とてあしあ

とくらあしあにのあー田りい

部のりいあしあ

とて居るあり

私せうくらつてれあひの父ねの書し

あつたといふことらん秘の物し

うきうきとらうことね斗そと行そや

いづくありしとくぬりそや

秘 名所よあつてとるにそや

そははとそとありとるにそや

そははとそとありとるにそや

そははとそとありとるにそや

たつた名はく

ひこまのうらぬ浪路よとれて

風よまぬらやとるにそや

あつてとるにそや

ほろれくひまとして風散よとせ

あつた名はく

うはつてとるにそや

あつてとるにそや

あつてとるにそや



笠のさつびくあらし道あらし  
うきうきしるやねんあらし

しるねりつ物

心

しるやあし船どあらしうらるるあしあ  
方れせりあはらうし十んし  
あしあらしとあらしうらるるあしあ  
あしあらしとあらしうらるるあしあ  
あしあらしとあらしうらるるあしあ  
あしあらしとあらしうらるるあしあ

舸 四聲身死云古我反  
湊語抄云波夜布祿

高尾舟云戰士可乘

之輕舟也

こころやれり自物捨云女はあらしのせえ

あらしのせえ 恒操

あらしのせえ 船

あらしのせえ 朝綱歌

あやしうあらしのせえ

順風ついであらしあらしあらし  
あらし

いふのめいしあさうたにせういさくふ  
まへん

に方十七

このふくう私をせしむ、信佐奥と信

比佐亨のたごことるふみつう邦

治政式

りつめらせうの後にれうまら

いさきのあさくはうしん

忠見集

うさくさくさくこのあさくはうしん

浪るまるとまのまきしん

けいすう初めらうしんはのあさくはうしん

こいつがゆるあさくはうしん神中抄取眼云

むらここのあさくはうしん信託云い

むらここのあさくはうしん李却王記云天

徳四年六月十一日是日備前備中候

路等飛彈至備前使申云賊二艘能交等也

從響能交系多於舟脱遁疑入京云云

むらここのあさくはうしん海賊のあさくはうしん

れ面新あさくはうしん

むらここのあさくはうしん傷前しり

ついでに... 三平

いさ... 海城の... 花

ら... 鬼... 何鬼

松河花... 三平

...

...

...

...

...

用...

...

...

川... 河鹿

...

...

...

らむと粧取よりさへうらうらうと  
れとれくくさんあまのこころよと  
あまのほふゆゆらりあまのあまらふ  
れあうらのまのあまの都らうと  
とふぶらうらうとあまのこころ  
らりさしてうらうと  
はうらうとさうらうとあまのこころ  
らうらうとさうらうとあまのこころ  
らうらうとさうらうとあまのこころ  
らうらうとさうらうとあまのこころ

あまのこころらうらうとあまのこころ  
あまのこころらうらうとあまのこころ  
あまのこころらうらうとあまのこころ  
あまのこころらうらうとあまのこころ  
あまのこころらうらうとあまのこころ  
あまのこころらうらうとあまのこころ  
あまのこころらうらうとあまのこころ  
あまのこころらうらうとあまのこころ  
あまのこころらうらうとあまのこころ  
あまのこころらうらうとあまのこころ



手ふりありにみれうらまへ  
をなすなり

あまのついでにうらまへ

は 郎守

あまのついでにうらまへ

あまのついでにうらまへ

あまのついでにうらまへ

あまのついでにうらまへ

あまのついでにうらまへ

あまのついでにうらまへ

あまのついでにうらまへ

あまのついでにうらまへ

あまのついでにうらまへ

あまのついでにうらまへ

あまのついでにうらまへ

あまのついでにうらまへ







任つゝあはれなるふくむかひの海とらふ  
まのちかひしはまはしはまのちかひ  
あはれなるふくむかひ

こころ  
秘 玉のつらさ

いそぎのつらさ

秘 多ふ入

九条よひしつらさ

あはれなるふくむかひ

あはれなるふくむかひ

秘 多ふ入

都の内なるふくむかひ

秘 秋のつらさ

三月よりつらさ

秋のつらさ

あはれなるふくむかひ

秘 多ふ入

如實敬龜之居陸似鳥雀之覆巢  
古交

不又能之効

菟 田記 莊子ノ真ノキニシテトクニシテ

叶ノ寸一況列ニキル

秘 古ノ一ニシテクニカク列効ニあり

ノ及ニ寸一開ニ睡鳩在河例ニシテ

とゆニシテカアレカ共ニ寸一ニシテ

クニシテ開ニ寸一ニシテ

カ身ノカクニシテ物ノカクニシテ

カカクニシテカカクニシテ

秘 不又能之効

カカクニシテカカクニシテ

カカクニシテ

カカクニシテ

カカクニシテ

カカクニシテ

カカクニシテ

カカクニシテ

カカクニシテ



蓋後被御前其御恨甚有恐二者郡司  
百姓饗膳倍給越嶮坦山數日致煩民  
間苦同我苦三者放生是海上之事也  
穗浪宮已非放生地因之避彼地欲移  
任宮濟松原有其故昔我國立鎮護  
始時戒定惠宮被松原地所置也仍其  
名ハ宮濟上號也ニ宮濟新宮可向  
新羅國方又礎面書敵國降伏之由可  
立其柱宮殿梁棟可用栢又可安置藥

師孫勒觀音等像券關公家早奔穗浪

古殿移坐韓宮濟宮者 畧記文 大貳藤

原當韓朝臣言上家任官府者少其真

材朝臣造立件新宮其官府狀云

託宣之旨為禦所來寇加之外賓通接

之境也其宮殿殊足為麗者 延長元

年遷御宮濟新宮

宮濟宮ハ汎前國ニあり

神功皇后鏡ニと澤法ノ事ナリ

秘 花

新 管崎ハ八幡日新ノ松海寺 左ノ海島ニ在リ

又此寺ヨリ

岡松海管崎ト云フツケクハ此ノ寺ニ

カノ法外ニ礼セ

肥前ノ寺ノあり給所ハ立教今ある

社ナレバニクハ幡ノ集給所ニ

ニ

ハ 八幡之五師

貞觀八年別當安宗ノ時以運如法師

始補五師安和二年別當貞芳ノ時以

五師貞善法師始補大五師

花 村上御記云康保三年八月廿八日藤

師寺三箇立所相率參陣外ニ

昇八幡宮五師五人有事凡一師立所ニテ此所ノ

カヤノミツヒ

秘 故少敷ノミツヒ人ノ

ウラツミノハ松ノ沖中ノ人

秘 其れノミツヒ人ノ



宇德尊聖人造立之法道上神龜元年

公家被建立堂宇同四年三月亦日信

頼請師行基菩薩 僖宗皇帝后馬頭

夫人文宗孫玄成太子娘 弘のん少き事と歎

泣きり仙くれとて了らして其女向

て日平と名を觀るゝ新法

泣けりと名中り一人の半信は宗雲

に於て其方よりわくもその一統

あそ面々際とてく息々容白瑞の

ふかりよけり因茲乾符三年申七月十

八日侍女を引率して明列乃げ

少しひて十種の宝也とならるる又

を後太良入唐州と名を觀者信在明神よ

行法々々神馬を後きり具瑞あらよ

一別記を言

とととととととととととと

秘をををををををををををを

いりりりりりりりりりりりり





みまらりやよまれぬくまうし  
せまうし利まうらりぬん  
疑いぬし

しんようら(10)

秘

一候乃熟志

ら

うかたぬおめくぬん

うのりよぬ

ぬん

しんようら

ぬん

ぬん

ぬん

ぬん

ぬん

あり

秘

ぬん

ぬん

くさーめさつてあはれりあふ

親くらみちるあけさけらつてを

つらつら又あつてあつてあつて

ことおきさるひさく

かーはむらつらつらつらつらつら

姉へのつら

<sup>秘</sup> 長谷乃あつてあつて

辛日

<sup>字</sup> 長谷一里斗あり

<sup>に</sup> 橋市 大木あつてあつてあつてあつて

市とてあつてあつてあつてあつて

浜石橋市とつてあつてあつてあつて

てあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて



女房あまきつと二人つかまへり

秘 せんれりつとありてあしめくそい

兄弟こゝろ

私い秘言あやまぬり

紀 あらまらり三人の姫君お節の后室を

ア毛い二人と辛白

ら つかまへりつと中ゆい

さらりゆい花よゆいあり拾遺集

何もしもあしつとまらふつあし

くしてゆきつとあしもの野ーゆりまら

まきつとあし

いすもーあし物

ら 大つが子つと物の名へし

秘 いすもーあし

或類字原信抄に不浄を川あしとち

してはくすつとあしとあしとあしと

れあしと生好信 チヨカウ 秘 秘 秘 強トキ 二懐と途

連とあしとあしとあしとあしとあしと



~~~~~  
~~~~~

秘  
~~~~~

~~~~~

秘  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

人...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

ちを思ふれをひさしく

このみことれが

をたけや

かしこいよる

ちをたけやをたけやをたけや

をたけやをたけやをたけや

をたけやをたけやをたけや

と糸うよき

けいもゆれ

みんく

いと糸をたけやのうりれ

たけやよき

たけやよきをたけやよき

たけやよきをたけやよき

たけや

かきこりし

夕鳥宿丹草

松うれをりし

およそこれ共いしくお茶とらた
くせしきおとく君はる尾と
うせきつおのきやとこのあ
ひしうたつこゆしおとくは
りりり

あつし
ちまのひき糸ししししし
ししししししししししし
ししししししししししし
ししししししししししし

あつし
いのや
三糸

三糸
三糸

ら
三糸

お長命つりもの君とい君各別あり
案し父れき部ありしししし
時ち節がくししししししし
きあふしししし

并
い若し例ありししししししし

花

寛平御記之臣家有出花者

今案昔のきかたハ眼宣云のうら
つらね人の名くい物後のきかたハ
まとなやう事くちとらるゝ時ハ人
とまかたといひーとありんかーと
こみまらぬいさうーとありぬとら
はひらり

いふ条の食ゆよふれこまらぬ
あそちとれあつていふれこまらぬ

ありーくみぬあり三條あり
つらぬくありぬありぬありぬ
ありぬありぬありぬありぬ

花

三條ありぬありぬありぬありぬ
くみぬありぬありぬありぬありぬ
はらぬありぬありぬありぬありぬ
三條ありぬありぬありぬありぬ
かちひらりありぬありぬありぬ

三条のそとかられぬ

に
格練の如のうすくさくさくひ移り

よきぬきしひらきしを略し

いふれ表のうすくさくさく

祀
格練のうすくさくさく

うと云か中しひらきし

うと云か中しひらきし

うと云か中しひらきし

うと云か中しひらきし

うと云か中しひらきし

祀
うと云か中しひらきし

うと云か中しひらきし

うと云か中しひらきし

うと云か中しひらきし

うと云か中しひらきし

うと云か中しひらきし

うと云か中しひらきし

祀
うと云か中しひらきし

あれうねうねと

かまのひらひらと

うへうへうへ

秘 夕雲とく

うらやまのうらやま

ちかちか糸糸とく

まゆみ

秘 右さう何ぞとく

秘 右を河くが氣の北寄とく

、并 玉うらやま

夕雲

玉うらやま

あそび

秘 夕雲とく

君乃は

并 夕雲とく

秘 夕雲とく

みねかり

秘
三葉う初く

唯君とて初れよ

玉うくこ

子あかしくさ

ねし君は介あしなましくさく

いさくくじんさく

秘
又あかしくさく

さくさくさく

あかしくさく

秘
さくさくさく

むくさく

秘

我あかしくさく

秘

さくさくさく

さく

さくさくさく

夕あかしくさく

ねさくさく

捨ときさく

しつゝささいささ

私られめられとんころみかれ

ハちくさくさくさくさくさくさく

はつむ威ふくはく

はよここくこくこくこく

さくさくさくさく

りりりりりりりりりりりりりりりり

らるくの不審よくけりる各別

らるるるるるるる

こくこくこくこく

秘 老夜舟

中みえくさくさくさくさく

秘 玉をさくさく

い月のひらくさくさく

秘 一ちのさくさく物さく移りさく

りりりりりりりりりりりりりりりり

いんさくさく

い月のひらくさくさくさくさく

いふことし
いふことし
いふことし
いふことし

いふことし
いふことし
いふことし
いふことし

卯月と交るのころ

のころとあはれ
いふことし
いふことし

いふことし
いふことし
いふことし

いふことし
いふことし
いふことし

いふことし
いふことし
いふことし

いふことし

いふことし
いふことし
いふことし

いふことし
いふことし
いふことし

いふことし
いふことし
いふことし

いふことし
いふことし
いふことし

いふことし
いふことし
いふことし

いふことし
いふことし
いふことし

いふことし
いふことし
いふことし

いふことし
いふことし
いふことし

いふことし
いふことし
いふことし

いふことし
いふことし
いふことし

とくまふくはり

くろくろくろくろく

まろくまろくろくろく

ちをのいふく

あーあれさうく

秘 ちをのいふく

あーあれさうく

こくまろくろく

秘 玉ふく

ふやあこふく

秘 初束し 辛月

ちをのいふく

まろくまろく

のまふく

秘 はくろく

いのりけ師

秘 ここのあさ

まろくの馬

りくまのこみきよれどささるるいし
くまやしきまにれと

秘
ちせう初く

くまのち後

名をうほよさう物事し

ゆくりいしせまかーいまれし

ちをうく

かきけあつこ

ワコナキ
けりまきこれし物後りあつはれと念

丁部

ちをいころかーみ

ぶつこの思れトとらん観方

いし

あゝの思れころのみん

是はほ氏のなほく

さつひあつせまよりりりりしーまの

名をうく甲の新念く

このあつこのおろこせ

和
人私守

嘗
人私守
嘗國力律領事を代え

人ひきけしと事りし

秘
人悲ふく観音

人悲ふく観音れ事

玉鬘君の事りしあひりし

類聚國史と歎云 五種ノ定ハ悲者

千年れいふ人せと ちん乃世

院十十律師ノ法と

人悲ふ人の移らひ

人悲薩人 代候者あはく

人悲の仕方

け三系汎軍し人悲を

人悲しふりひて

人ひきけしと事りし

嘗國力律領事を代え

人ひきけしと事りし

白氏文集
日本記

其の意量のしるしをみるにむかひ

いふにふとあはし

いふにふとあはし

婦の信とあはし

ひあしき物とあはし

名をいふにふとあはし

あはしと交領の書とあはし

いふにふとあはし

いふにふとあはし

秘
右をく割

右をく割

すく

中將及のひの記をみるに

秘
今れ肉をた

中將及の記をみるに

之系よりいふにふとあはし

こい昔よりいふにふとあはし

下とあはし

四海安危照掌門百王理記懸心中白氏文集
百鍊鏡

いづつしつなほし

いづつしつなほし 聖殿まへ

いづつしつなほし

し内を居の女とらむるあしこ

の受たるの書よあつた

いづつしつなほし

あはれまほし

秘 三条う約

花 床りしあはれな女おまほり

あはれし人れりしをすれ

今業あまらるあはれり

あはれはいふとつたを居公卿

えりしつしつなほし

あはれしつしつなほし

る初し

私花乃首を西りし

暫待し

大貳のそららのういれふ水のそとてこれ觀世

をりし

秘 流ありて今もあちあちの室のあつて

大貳のしるしういよありしは事とす

私大貳をいふ方とすつれ鼓といふと

いふとくといふ大貳のいふ方とす

大貳觀世をいふ大貳は鼓とすといふ

らしむるなり

行 在流前四沙流満誓途流前四觀世音

寺別當 見万葉 本願天智天皇以去大

化年中臨幸於外都遊獵於此砌之晴

作侍臣曰此處者四神相應之冥窟一

宝興隆之術地也乃至登極以後為早

件御願白風十年初勅下流亦因建立

菩提院乃至天平神護二年軌摸東大寺

之形壇遷築當伽藍之迹砌

都府樓繞看尾色觀音寺只聽鐘聲管家

心 八幡と對して松浦宮崎といふ長

菅寺小對して三水の山寺以親世者
をもしつら物縁の作る處よりあるに
あつた向し

五
うささうし何しつらふよされまら

あよまらうまらあまらあまら

身
満堂の親世者寺作りし時の教へ

観音と流本四親世者寺 ん万集 一勅

法形れ山寺と親世者寺同一に法水

いそふの各し

あれむはけそ

しつげはねあうしつらあをま

そ流しつ事れのみあそつら

ほくくははらん

秘
まうつし

くははあそふのいよ

あそひはらんつら

つらくつらあまら

あまら

何 有 京 瑞 瑠 君 ありくは内侍のみ

れ童名く

その人の名をみせしまうし

号

いしむしむしあやうし

秘

いしむしむしあやうし

いしむしむしあやうし

秘

いしむしむしあやうし

いしむしむしあやうし

いしむしむしあやうし

いしむしむしあやうし

秘

いしむしむしあやうし

号

いしむしむしあやうし

いしむしむしあやうし

いしむしむしあやうし

いしむしむしあやうし

いしむしむしあやうし

いしむしむしあやうし

秘

いしむしむしあやうし

屋のくみれいさうら
秘はまらさしむ日

又あいらそめふ姫君

秘明石姫君秘

やばれまら

秘あうらさうら

ねし乃君

原氏君

父々ししの山時

秘桐葉

あけの御しきり

秘高や女虎

ころいめ君

あし乃姫君

くんとはれさうらあめんとあやせ

うしきらさし

原氏君れくゆらさし事と名さか

とらさくあうらさしあめらのさし

あそくれ申のわが入流うんせうく
これよあひびあつらふ

秘 原氏はあまのくにわかれ流る

秘 双くはあまの事とのあそくはあまの神もと

うきなりしよのあそく

いほりあそくはあそく

秘 玉うきあそくはあそく

名をうきあそくはあそく

いほりあそくはあそく

いほりあそくはあそく

いほりあそくはあそく

いほりあそくはあそく

秘 何海花をあそく

いほりあそくはあそく

いほりあそくはあそく

いほりあそくはあそく

秘 楊巖徑云世尊頂於百寶無畏光明

今葉弘ノ光明ニ有るしりりノ是ナ
りしあらしの金もさくあはれ
光ハナキ入る中ノ光ハナキ
しりりあらしの金もさくあはれ
とぬらむあらしの金もさくあはれ
こよよあらしの金もさくあはれ
人のさくあらしの金もさくあはれ
あらしの金もさくあはれ
あらしの金もさくあはれ

おびりりりり

秘
あらしの金もさくあはれ

あらしの金もさくあはれ
秘
あらしの金もさくあはれ

あらしの金もさくあはれ
あらしの金もさくあはれ

あらしの金もさくあはれ

秘
あらしの金もさくあはれ

あらしの金もさくあはれ

多しふよ歌略して見よく
たしつる多しつる
あつたのせきく
^秘し
らるる

秘し 秘し 秘し 秘し

えん
るし

うしろむき

^秘か

い

^秘か

う

は

おのれをいふは

子のよき御心は

まはるるを深のふもせん

をいふは

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

西に下つたるをいふは

西に下つたるをいふは

西

西に下つたるをいふは

西に下つたるをいふは

西に下つたるをいふは

西に下つたるをいふは

西に下つたるをいふは

西に下つたるをいふは

西に下つたるをいふは

[Faint bleed-through text from the reverse side]

ちさ

二の板をいふは

二の板をいふは

西

西に下つたるをいふは

西に下つたるをいふは

秘

西に下つたるをいふは

てきやうくしんしん

私書とてよあひなむかひの

~~~~~

うしんしんしんしん

いりつゝいりつゝいりつゝ

うしんしんしんしん

梅川あつこ

うしんしんしんしん

うしんしんしんしん

うしんしんしんしん

うしんしんしんしん

うしんしんしんしん

うしんしんしんしん

うしんしんしんしん

うしんしんしんしん

うしんしんしんしん

うしんしんしんしん

~~~~~

秘

まろくの返答にそのまの事いさ
行し今日あひあつ事いさ
神しあ

并

姉あさ事いさ
のまろく

ら

あさ事いさ
まろく

まろく

名をろく

カ事いさ

秘

らろく
まろく

秘

あさ事いさ
まろく

まろく

あさ事いさ
まろく

まろく

夕白くしらひゆららぬまろくはひ
物候は葉とと東一ふりそりあがり
てはらふらうととあつてしこし

はらとと

^秘は鈴菟葉はくのかくぬちうらにえ
ととらうとと

ふれらうとと

^秘あはらのかみれかちいそら
^花かちいそらとと

^并とがれらうと

かちいそらととあつてし又あつ
くまれしきととあつて

親者へ入書く三日のうらとと
ふく

秋風谷しらふふ吹のりとして

谷乃吹あけとと事し
あけづらりの傍のまぬし
とと

面白

私沛百首一中小古守待と後柳原

院師智

吹のちる音風かこしるに

ゆくののよをれしれ

くあみくりらんし

又あふみこもらるるあふみこ

いりしよ音もやうくし

こもしたのしりあひる

うくせあふし

秘
内倉れは子

心
くあふみあなりのし

まうつた君が我もと早下して下

草とはのたう

わらわらう新れ下あふし

あふし
あふしあふしあふしあふし

か
あふしあふしあふしあふし

あふしあふしあふしあふし

松皮行秋早トトて

し

引入の車

秘

二条院の棟があらうし目うつりよ

六条院れいらくよまぬかき

并

二条院の目うつりよ

ありしうち

秘

かろくれ事成らぬし

ありしちとま

秘

紫とらうち

ありしうち

ちとまの目うつり

ありしうち

秘

紫との西方とほれぬよ

別一うち

ちとまの目うつり

こゆふ

若石

石

あまのけや

原の河津とこのまを

ゆきとらえいじんゆきとらえいじん
てとらえいじん

ゆきとらえいじん

ゆきとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

いしとらえいじん

秘 原のみめーいりあはるる
并 是とてふらま

は けいんくろくしんしんしん

しりあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるる

あはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるる

あはるる

あはるるあはるるあはるる

秘 けいんくろくしんしんしん

あはるるあはるるあはるる

秘 原のたりあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるる

并 右をい原氏れあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるる

あはるる

は 原のたりあはるるあはるる

秘 原のたりあはるるあはるる

とくしあし

茶チヤころ判ほ氏れにんばきま——
まのにおい——のほひくをさ
あいつくあしあし

松くも——あつららららと
あしあしあしあしあしあし
ほのほし——ちかまきにはまのく
あつららららららららら

えぬあやうしとをさぶのまを
くれ茶をれと茶乃くちと推さ
けつあつらららららららら
り茶の初れ

いめいあし
茶のいぬし

世中うらやぶあはらららら
ほ氏乃いものいぬのりちかまき
なら茶あし

かろいろうのりしきも繁きん

秘

ほの初こころもあはれ

にうらみこころもあはれ

あはれちさうあはれこころもあはれきん

あはれこころもあはれしとらけて乃

うらみたりあはれきん

あはれみらう

秘

あはれこころもあはれ

あはれこころもあはれ

秘

あはれこころもあはれ

あはれこころもあはれ

あはれこころもあはれ

あはれ

あはれこころもあはれ

あはれ

あはれこころもあはれ

秘

あはれこころもあはれ

あはれこころもあはれ

ふみぬき

秘 葉とて

ふみぬき

秘 葉の約

ふみぬき

ふみぬき

ふみぬき

ふみぬき

ふみぬき

秘 葉の約

ふみぬき

秘 葉の約

ふみぬき

ふみぬき

ふみぬき

ふみぬき

ふみぬき

ふみぬき

秘
名をりつ

古きうらなひの葉をわきしはるがくせん
と早にうしてつぎ

まごりうがふし

秘

うらなひの葉をわきしはるがくせん

まごりうがふし

うらなひの葉をわきしはるがくせん

まごりうがふし

うらなひの葉をわきしはるがくせん

まごりうがふし

うらなひの葉をわきしはるがくせん

まごりうがふし

秘

うらなひの葉をわきしはるがくせん

まごりうがふし

うらなひの葉をわきしはるがくせん

まごりうがふし

うらなひの葉をわきしはるがくせん

まごりうがふし

まうくれ^秘意に西に居る女から
あしこわれこそう申しなるとして
はらもしとぞいんこくしとて
いぢぢぢ

いんかきしししし

はら湯よめいしとて

いんかきししし

^秘ちとらて

いんかきしし

右をうり初し原のはこは来しといふ
きれつてふかのう

肉を食のうはししし

あしこわれこそう申しなるとして

原氏に申はる

いんかきしし

^秘は
いんかきしし

夕魚このひあしとて

しとちをうすしし

まきぬしぬく

まろくとしりまろくぬくぬく

まろくぬく

いせぬし

六条法よむらんまけぬま

彌々事よむらんぬく

あふまのむし

まろくぬく

まろくぬく

六条院あゆむぬく

いふらんぬく

いふぬく

まろくぬく

まろくぬく

まろくぬく

まろくぬく

まろくぬく

まろくぬく

とらぬるわもくしんむくしん
こりひまらふのぬれ
し親子のほほのまへ
はまもくしん

秘

長も安穩
は親子のほほのまへ
まもくしん

かちひんぬれ

おはせしん

とらぬるわもくしん

らもくしん

秘

釣りたけのまへ

秘

くしん

らぬれ

てらぬれ

秘

とらぬるわもくしん

えらりり事には事とよあしりる

さしりり事には事とよあしりる

はらあらわふあり

ほのほにれ中あらしりり

とあはら

すけりりりりり

あらしりりりりり

南りりりり

秘 糸と乃以名

けせりりりりり

秘 けせりりりりり

河 顯證 又見證けりりり

時 けりりりりりりり

中宮乃かりりりり

心 ち糸院れいりりり

辰井時にりりりり

さしりりりりり

中宮乃かりりりり

皆みはるくあつしよのちりあはし
しよのちりあはしよのちりあはし
しよのちりあはしよのちりあはし
しよのちりあはしよのちりあはし
しよのちりあはしよのちりあはし

礼記曰婦人鑿帶房中
任曰房中則西階也天子諸侯有左

右侍者也 業の女心あはしつとあはし

少のハ久久之仙尾しつ 執政を信じて
しよのちりあはしよのちりあはし
しよのちりあはしよのちりあはし
しよのちりあはしよのちりあはし

教里れは終るはつ所し

くはあはれ對の文獻しあつとあはし
はしよのちりあはしよのちりあはし
しよのちりあはしよのちりあはし
しよのちりあはしよのちりあはし

あはしよのちりあはしよのちりあはし

花らりる里しあつはしよのちりあはし

くはあはれ對の文獻しあつとあはし

父あつと乃しあはれ對の文獻しあつとあはし

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

秘
海乃河

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

秘
~~~~~

~~~~~


紫とのやを指さししつてはまはく

みよこころはうらむるこころ

秘 けねえれ母とあはれははのよと

いまのこころのこころのこころ

まろくしとくはな

秘 甲斐しとありてはく

まろくしとくはな

まろくしとくはな

まろくしとくはな

まろくしとくはな

まろくしとくはな

秘 御ふとくはな

いらぬとくはな

秘 比とあはれ

市女高くとくはな

まろくしとくはな

まろくしとくはな

今葉今の世とあはれ

秘
源の祠

おろし

お怒り

えい

おみ

今年一けたるは今年五月つ木二歳

礼記内則篇女子十歳一布也

十有五歳一布

礼記よむやくは嫁とて九婦とて

おれおろし 婿といはる

年一老

おろし

くろ

おろし

私

おろし

り

あり

とてらるる流りしはかく

私あらしむるもつらばんはつらむる

さく又さつりてはつらむるはつらむる

流りしとあしむるはつらむる

中ねはさうしはけきさう

夕霧はむらさきしりさう

の流りし

夕霧中ねのしりさう

夕霧はむらさきしりさう

夕霧はむらさきしりさう

夕霧はむらさきしりさう

夕霧はむらさきしりさう

夕霧はむらさきしりさう

夕霧はむらさきしりさう

夕霧はむらさきしりさう

夕霧はむらさきしりさう

夕霧はむらさきしりさう

明石姫君一人斗ありしりさう

ふりくたのぬき

むらさきのしんま

このあやかりしんま

秘 ほうりつをさうり

いしりゆき

秘 花らりまきしんま

つぎくしりゆき

秘 七教里の匂

なれらりのく

秘 ぼれにされり

むらさきほりあまき

はらあひりきりまき

ゆき

しんまきり

秘 ちりあまき

りあまき

りあまき

かきしんまき

わろくくくくくくくく

秘 玉の

れーくしー 海の

いーくしーくしーくしー

海ノ初

おをーくしーくしーくしー

秘 灯ノ事く灯しんくしん

は舞ーおん

おののくし

とれゆえんよの給くくしん

何 莫西

しー男くしんくしんくしん

りあーくしーくしー

あーくしーくしー

くしんくしんくしんくしん

秘 夕白くしんくしん

松父肉を食くしんくしん

きんくしんくしんくしん

右紙

お世いらはひふのまねしらん
之等よりありありし
蟬子てはあし
乃神もくう
おうくは
ちり
てん

昇

秘

とせよありの歌の何れ
合いぬ
し

おつれ
あし
ほの

あし
あし

秘
原の句

秘
私あふも今又ふれはとをこ
年ありあけり河をけしは
くよの奇の初めふまうそしるをいた
めりしあつらふに又母に母
白くこころあつらひはあつらふ
あつらひあつらひはあつらひ
あつらひあつらひはあつらひ
はあつらひあつらひはあつらひ

秘
けむらうせしと秘くあつらひ
名をみあつらひ

このころあつらひと名をけしは
らあつらひ
らあつらひ

秘
原のころあつらひと名をけしは
らあつらひ

秘
はあつらひあつらひはあつらひ

まがらひのちり

まがらひのちりまがらひのちり

まがらひのちり

まがらひのちり

まがらひのちりまがらひのちり

まがらひのちり

まがらひのちりまがらひのちり

まがらひのちりまがらひのちり

まがらひのちりまがらひのちり

まがらひのちりまがらひのちり

まがらひのちりまがらひのちり

まがらひのちりまがらひのちり

まがらひのちりまがらひのちり

まがらひのちりまがらひのちり

まがらひのちりまがらひのちり

まがらひのちりまがらひのちり

従うらあゝぬ人の

物と云ふは物と云ふ

す
うらあゝぬ人の物と云ふは物と云ふ

あゝぬ人の物と云ふは物と云ふ

うらあゝぬ人の物と云ふは物と云ふ

うらあゝぬ人の物と云ふは物と云ふ

あゝぬ人の物と云ふは物と云ふ

す
あゝぬ人の物と云ふは物と云ふ

うらあゝぬ人の物と云ふは物と云ふ

人の物と云ふは物と云ふ

うらあゝぬ人の物と云ふは物と云ふ

うらあゝぬ人の物と云ふは物と云ふ

うらあゝぬ人の物と云ふは物と云ふ

あゝぬ人の物と云ふは物と云ふ

す
うらあゝぬ人の物と云ふは物と云ふ

うらあゝぬ人の物と云ふは物と云ふ

うらあゝぬ人の物と云ふは物と云ふ

す
うらあゝぬ人の物と云ふは物と云ふ

とていふ事なりしにゆゑに御座りし事

後悔らるる事

今これよりいふ事にしては

多の事なる事なり

うらみ事なり

おそれあり

候とせし事

候い事なり

よひ事なり

いふ事なり

事なる事なり

らる事なり

事なる事なり

らる事なり

事なる事なり

事なる事なり

事なる事なり

事なる事なり

きんぎょのこころ

は 玉ころもくしりかきつるに誓ふよからし

しはくしてかきつるに冠の纏後撰よ

経 経 経 経 経 経 経 経 経 経

いしりかきつるに誓ふよからし

わ 我のこころの親あつたし

ま 玉ころもくしりかきつるに誓ふよからし

伴 伴 伴 伴 伴 伴 伴 伴 伴 伴

人ころもくしりかきつるに誓ふよからし

西のこころの親あつたし

は 玉ころもくしりかきつるに誓ふよからし

は 玉ころもくしりかきつるに誓ふよからし

あ 玉ころもくしりかきつるに誓ふよからし

あ 玉ころもくしりかきつるに誓ふよからし

け 玉ころもくしりかきつるに誓ふよからし

和 玉ころもくしりかきつるに誓ふよからし

玉ころもくしりかきつるに誓ふよからし

中 玉ころもくしりかきつるに誓ふよからし

ほれあうれとよき家へのはな
くもりてまゝ

秘 又書れあはれしもの類
まゝ

いみじくもあはれしもの類
い

秘 又書れあはれしもの類
うひ給くそれあはれしもの類
あはれあはれしもの類

こゝろとてあはれしもの類
秘 又書れあはれしもの類
あはれあはれしもの類

秘 又書れあはれしもの類
あはれあはれしもの類

あはれあはれしもの類
あはれあはれしもの類
あはれあはれしもの類
あはれあはれしもの類

あきつゝ

^和ほろろ

いぢり

^和あし

あし

あし

^和あし

あし

あし

あし

あし

あし

あし

あし

あし

あし

あし

おぼろけのうらなひの事

あつたれお別りて家自り原の

まゐる

おぼろけのうらなひ

おぼろけのうらなひ

おぼろけのうらなひ

おぼろけのうらなひ

おぼろけのうらなひ

おぼろけのうらなひ

おぼろけのうらなひ

おぼろけのうらなひ

おぼろけのうらなひ

おぼろけのうらなひ

おぼろけのうらなひ

おぼろけのうらなひ

おぼろけのうらなひ

おぼろけのうらなひ

おぼろけのうらなひ

あまのつねに神代はしるすまゝなり

いふまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

うまのつねに神代はしるすまゝなり

あまのつねに神代はしるすまゝなり

あまのつねに

うまのつねに神代はしるすまゝなり

あまのつねに神代はしるすまゝなり

あまのつねに

あまのつねに

あまのつねに神代はしるすまゝなり

あまのつねに

あまのつねに神代はしるすまゝなり

あまのつねに神代はしるすまゝなり

あまのつねに

あまのつねに神代はしるすまゝなり

あまのつねに

あまのつねに

あまのつねに

ふりかへしあひて

はあふ

いはゆるしあひて

あつとあひてあひて

あひてあひて

あひてあひてあひてあひて

あひてあひて

あひてあひて

あひてあひてあひてあひて

あひてあひてあひて

あひてあひてあひてあひて

あひてあひてあひて

あひてあひてあひて

あひてあひてあひてあひて

あひてあひてあひてあひて

あひてあひてあひてあひて

あひてあひてあひてあひて

あひてあひてあひてあひて

やれりてんてい

秘

物より後かてんてい
いふこと申されしは
多しと申すに對し
同されしと申すに對し
と見え候一物等と
りたりしと申すに對し
てんてい
みりしと申すに對し

作候

花

貞觀政要唐太宗嘗謂侍臣曰以銅為鏡可以正衣冠以古為鏡可以知知興替以人為鏡可以明得失朕常保此三鏡以防己過今魏徵泣血遂亡一鏡矣
今葉人て後とて魏徵
やれりてんてい
いふこと申されしは
多しと申すに對し
同されしと申すに對し
と見え候一物等と
りたりしと申すに對し
てんてい
みりしと申すに對し

私にこれとておぼしむるに
さういふ事には
さういふ事には

さういふ事には
さういふ事には

二二五

初

さういふ事には
さういふ事には
さういふ事には

さういふ事には
さういふ事には
さういふ事には


~~~~~

~~~~~

~~~~~

<sup>和</sup>~~~~~

~~~~~

^并~~~~~

^也~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

<sup>和</sup>~~~~~

~~~~~

~~~~~

<sup>花</sup>~~~~~

~~~~~

~~~~~

花

ほ氏乃家との中へはらひて  
あこねみかりぬる葉とらひて  
ぬるとあつしつ

花

いしらのしらたましに  
花のほ氏乃の海知おのま  
はなとあつしつはぬあつしつ  
くさつあつしつあつしつ  
又あつしつあつしつ  
何とあつしつあつしつ

弄

うこひらしつあつしつ  
ほ海乃悦つしつあつしつ  
ほ氏乃とらひのほとらひ  
まねつしつあつしつ

物

秘

玉うつしの結構とらひ  
とらひあつしつあつしつ

秘

それとらひあつしつ  
あつしつあつしつ

あはれおのゝしめいほりて  
ういひのふらゝるゝはははは  
なまゝとておのゝしめいほりて  
危く

私にせらるゝおのゝしめいほりて  
あはれおのゝしめいほりて  
あはれおのゝしめいほりて  
あはれおのゝしめいほりて  
あはれおのゝしめいほりて  
あはれおのゝしめいほりて  
あはれおのゝしめいほりて  
あはれおのゝしめいほりて

今去の丁の前と申し

ういひのふらゝるゝはははは  
<sup>秘</sup>いふらゝるゝはははは

柳のしらぬのしらぬ

<sup>花</sup>柳のしらぬのしらぬ  
しらぬ

しらぬのしらぬのしらぬ

しらぬのしらぬ

しらぬのしらぬ





いふらせらるるどみつり終しにわ

あつらりけりのほしゆきさるる

并

いさふ

源氏乃御料

秘

終るゝ笑いらすし終くし古い危の

し朽葉よあさひのさる花統物

死

まあびの危のまふましくらあ

うさあもたきてまあ物かまら

まらたれしとらりしうとあくら

うらふゆきしあひのらまあ

れんとるのたまらふの例あ

何あまらうまらふそのせ

あしとまあらたらしうとあ

ららうまらうまらうまら

13

貴なるゆきしあのみ

次に書

物高にま貴衣を不親王源之

氏及良家子孫弱冠者まら

子孫候及上時を友時用貴衣

并

くらりし事いさのゆき



まゝの〇のまゝりよめとらりまゝり

とらり

いふやうにむしめしるまゝり

<sup>秘</sup>の句

柳のまゝりよめとらりまゝり

私花のまゝりよめとらり

あつちよめとらりまゝり

しるまゝり

あつちよめとらりまゝり

いふやうにむしめしるまゝり

いふやうにむしめしるまゝり

いふやうにむしめしるまゝり

いふやうにむしめしるまゝり

いふやうにむしめしるまゝり

いふやうにむしめしるまゝり

いふやうにむしめしるまゝり

いふやうにむしめしるまゝり

いふやうにむしめしるまゝり

あまのつらさくも又奥のくもたすたは

平日向海

花もよきうららかにいかにいかに

しるはるるもいかにいかに今もあまの

しるはるるもいかにいかにいかにいかに

あまのつらさくも又奥のくもたすたは

あまのつらさくも又奥のくもたすたは

あまのつらさくも又奥のくもたすたは

あまのつらさくも又奥のくもたすたは

源の末つらさくも又奥のくもたすたは

あまのつらさくも又奥のくもたすたは

あまのつらさくも又奥のくもたすたは

あまのつらさくも又奥のくもたすたは

あまのつらさくも又奥のくもたすたは

あまのつらさくも又奥のくもたすたは

あまのつらさくも又奥のくもたすたは

あまのつらさくも又奥のくもたすたは

あまのつらさくも又奥のくもたすたは



みるく

秘

本稿に記す所は、  
多し。……

……

……

……

秘

……

……

……

秘

……

……

……

……

……

秘

……

……

……

……

……









秘 道生君の文

帝徳宮の末攝の父をくみやみ

いじり北野よをき紙を川し

うはめし

みよこしきせりし

ほらまらあろりし

ころれぶあししあはるる

ありりし

有少家體拙又後成式一挙七病書

式に出四病源非體胎有八病是あし

しりりさくれろりこの

源の牛得方たる石徳まうんわりの

きんていりしりしりあしり

くちりし

うきりしりしりし

秘としりしり病とん

あしりしりあしりあしり

病とんしりしりしり

いふか物し

13

勤くまひく女の宿とて遊ばし

さつとくさくさくさく

くあまひくさくさく

秘

物うまかきとまりま

くまのまひくさくさく

めあしし

くあまひくさくさく

あかいろさぬさくさく

原れあしきあまひくさくさく

くさくさく

うさくさくさく

秘

まきさくさくさく

さくさくさく

秘

あしきさく

あしきさく

常倍さくさくさく

さくさく



あがはるあまのうらみ

〜のよらぶら〜より〜

はあし

秘

又つをききんせき〜何と信如し

秘

きよのゆげ〜きよのふれをよ

くしゆらんし

い〜り〜あ〜り〜のけけ

秘

〜物信りし〜し主稿の也新

〜ん〜い〜け〜い〜

〜〜り〜ん〜あ〜ら〜り〜

〜〜らんし

秘

〜の也事〜ふ〜のあ〜ら〜り〜

〜〜り〜き〜き〜事〜事〜の〜

〜ん神〜わ〜して〜あ〜ら〜り〜

〜〜らんし〜あ〜ら〜り〜

〜〜り〜

秘

〜つ〜れ〜き〜り〜

〜氏〜の〜あ〜ら〜り〜



さういふことばにしては今の方より

いふこともなくいふこともなく

いふこともなくいふこともなく

いふこともなくいふこともなく

いふこともなくいふこともなく

いふこともなくいふこともなく

いふこともなくいふこともなく

いふこともなくいふこともなく

いふこともなくいふこともなく

いふこともなくいふこともなく

いふこともなくいふこともなく

物なり

いふこともなくいふこともなく

いふこともなくいふこともなく



